令和８年度（2026 年度）第２回北区まちづくり懇話会　会議録

【日　　時】　令和８年（2026 年）11 月 11 日（水）午前 10 時～11 時 40 分

【場　　所】　植木文化センター　２階多目的ホール

【出席委員】　岡　順子、原口　美季、廣永　芳伸、山部　陽平、吉永　洋子
徳永　親、堀　史、井村　ユリエ、一安　明子、古市　伸一郎
境　真紀　以上１１名（敬称略）

【傍 聴 者】　なし

【会議次第】　１　開会
２　会長挨拶
３　説明及び審議事項
（1）令和９年度（2027 年度）北区まちづくり推進経費について
（2）その他
４　閉会

１　開会

２　会長挨拶

３　審議事項

（1）　令和９年度（2027 年度）北区まちづくり推進経費について

～　事務局から別紙１（地域コミュニティ：事業番号１～11）について説明　～

◆地域日本語教室運営事業

（委員）

予算が大幅に増額されている理由は何か。

（植木まちセン）

外国人住民との交流促進・多文化共生を目的としている。

専門機関への委託や教室開催回数の増加（月２回から最大月４回）を予定しているため増額している。

◆ほくぶLink NEXT　～ほくぶで出会い 人とつながる～

（委員）

各地域で実施されている集談会予算で、北部地域のみ経費を計上している理由は何か。

（北部まちセン）

これまではファシリテーターを地域担当職員が担ってきたが、次年度は専門的な人材を活用し、より良い課題整理や成果創出につなげるため予算化している。

◆モルックしようぜ！

（委員）

いろんな人が参加できるモルック大会はとても人気である。モルック大会事業の内容及び予算の内訳を教えてほしい。

（清水まちセン）

しみずカップの運営に対する報償費や商品代、モルックセットの更新費用等として計上している。

◆まちづくり情報発信力強化

（委員）

SNS で発信するが、スマホを見られない高齢者にも見てもらえる取り組みは良いと思う。今年度の効果検証の状況はどうか。清水まちセンに留まらず、様々な所で実施しても良いと思う。

（清水まちセン）
　今年６月から清水まちづくりセンターで試行運用中。
　利用者アンケートでは好評で、継続設置を希望する声が多かった。
　次年度は本格運用を予定している。

◆たつだ地域応援パートナー事業（新規）
（委員）
　地域団体と企業等のマッチング事業は単年度事業か。
　継続的な仕組みとして考えているのか。
（龍田まちセン）
　仕組みそのものは継続していく考え。
　地域課題と企業・団体の資源をつなぐプラットフォーム形成を目指している。

◆「北区の魅力！」発信事業
（委員）
　ひまわりの種から油を採取する取組が行われているため、その活用方法について検討してはどうか。また、品種選定や種の再利用についても工夫の余地があるのではないか。
（委員）
　現在配付しているひまわりは花が東側を向く品種であるが、全方向に花が咲く「コンサートベル」についても、高価ではあるものの導入を検討してほしい。
（総務企画課）
　現在配付している種は緑肥用の品種であり、咲いた後はそのまま土に還ることで肥料になるもの。来年度については、ご意見を踏まえ、配付する品種についても検討した上で購入・配布を行いたい。

◆地域コミュニティブランド事業
（委員）
　令和３年度から継続している事業だが、これまでの成果や今後の方向性はどうか。
　SCB 理論がどのようにまちづくりに活かされているのか分かりにくい。
（総務企画課）
　プログラミング教室はこれまで 129 名の小中学生が参加。
　動画コンテストには 113 作品の応募があった。
　若者や大学生が北区や地域活動に関心を持つきっかけとなっている。
　今後は実証と検証を重ねながら事業効果を検討していく。また、北区では集談会を開催しているが、SCB 理論で提唱されている「ゆるやかなつながり」の考えも参考にしている。

◆北区地域コミュニティづくり支援補助金

（委員）

申請件数や新規団体の状況はどうか。

（総務企画課）

令和８年度は 18 件申請、16 件採択。

モデル事業 13 団体のうち４団体が新規。

地域課題対応事業３団体を含めると、新規団体は計７団体。

～　事務局から別紙１（こども～文化振興：事業番号 12～23）について説明　～

◆北区防災まちづくり事業

（委員）

地区防災計画策定の進捗状況はどうか。

（総務企画課）

令和７年度までに３校区で策定済み。

令和８年度は２校区で実施予定。

今後も地域自治協議会と協議しながら計画的に進める。

◆ごみ出しルールブック普及事業

（委員）

作成予定部数 15,000 部とあるが、誰に配布するのか、優先順位はあるのか。また、配布時期はいつ頃を予定しているか。

（総務企画課）

植木地域の各世帯（全 13,000 世帯）へ配布

ルールの変更が令和９年 10 月からのため、夏頃には配布し、ホームページへも公開予定。

◆スケアードストレート交通安全教室

（委員）

この疑似体験は、１年に１校を対象としているが、体験できない人も出てくるため、動画コンテスト等も活かして各小中学校でも視聴できると良いと思う。

（龍田まちセン）

地域担当職員も動画作成できるため、北区公式インスタグラム等も利用して普及に努めていきたい。

◇外国人住民との共生・企業連携

（委員）

外国人住民を地域活動へ自然に参加させる仕組みが必要。

外国人を雇用する企業も地域づくりに積極的に関わるべきではないか。

（総務企画課）

外国人住民の孤立防止や相互理解促進は重要な課題。

地域行事への参加など身近な取組から進めていきたい。

◇こどもの見守り（一時預かり等）について

（委員）

令和８年熊本地震の後、夏休み中ということで、小学校低学年は学童保育があるが、余震が続く中、高学年の小学生や中学生を置いて仕事へ行くことへの不安を保護者の方からよく耳にした。私たち一法人だけでの見守りは難しいため、その対応は行政でも考えてもらえないか。

（総務企画課）

災害発生に伴い、そのようなニーズが生じると承知した。大変重要な課題であるが、行政だけで対応するのは難しいと思われ、地域や企業のお力も借りる必要があると思っている。今回いただいたご意見踏まえて、今後検討していきたい。

◇こどもたちへ文化活動への支援

（委員）

子どもたちの文化・芸術体験への支援事業が少ないと感じた。

ホール活用や音楽鑑賞機会への支援制度があればよい。

（植木まちセン）

小中学校の活動であれば植木文化ホールの使用料について減免が適用されるため、ご相談いただきたい。

◇事業全体の成果指標について

（委員）

各事業がどのような将来像を目指し、どのように成果を測るのかが見えにくい。

KPI（事業効果・成果指標）や検証結果を示してほしい。

（総務企画課）

区の重点目標に沿って事業を実施している。

時間に限りがあるため、全事業をお示しするのは難しいが、資料のつくりや説明内容等改善を図りたい。

▼区長の権限について

（委員）

公園愛護会の活動として公園フェンスを利用したゴーヤやキュウリの栽培を希望

したが、土木センターの判断により認められなかった。地域の要望であっても区で判断できる範囲が限られており、区の裁量が小さいと感じた。

（区長）

区独自でできるものもあるが、５区で統一した見解が必要になる事業もある。今回の回答は、確認の上、後日させていただきたい。

４　閉会

次回は２月に開催予定